

県の位置図

本書では、ページの右上に、行政区画紹介図の色に合ったカラーの囲いが表示され、対照しながらお読みになるに便利だ。県を紹介する最初のページに、当県の縮小図が表示される。



目録

ポーランド地図、県の位置図	2-3
ポーランドにおける県の区画紹介図	4
ポーランド史概説	5-7
西ポモージェ県 (woj. ZACHODNIOPOMORSKIE), ポモージェ県 (woj. POMORSKIE), ヴァルミア・マズールィ県 (woj. WARMIŃSKO—MAZURSKIE), ポドラシェ県 (woj. PODLASKIE)	8-61
ルブシュ県 (woj. LUBUSKIE), ヴィエルコポルスカ県 (woj. WIELKOPOLSKIE), クヤヴィ・ポモージェ県 (woj. KUJAWSKO—POMORSKIE), ウッチ県 (woj. ŁODZKIE)	62-89
マゾフシェ県 (woj. MAZOWIECKIE), シフィェンティクシシュ県 (woj. ŚWIĘTOKRZYSKIE), ルブリン県 (woj. LUBELSKIE)	90-126
ドルヌイ・シロンスク県 (woj. DOLNOŚLĄSKIE), オポーレ県 (woj. OPOLSKIE), シロンスク県 (woj. ŚLĄSKIE)	127-155
マウオポルスカ県 (woj. MAŁOPOLSKIE), ポトカルパチェ県 (woj. PODKARPACKIE)	156-211
ポーランド概況；地理および領土面積；地理的環境；気候；自然資源；言語；人口；経済・文化；宗教；行政区画；政治体制；ポーランドの祝祭日；ポーランドの有名な歴史の人物；ポーランドの主要な都市の紹介；ポーランドでユネスコに世界遺産リストに記載されたところ；ポーランドの旅行案内。	212-228

ポーランド史概説

旧石器時代末期、ポーランドを流れるヴィスワ川のくぼ地で、既に原始の人類が居住した。20世紀の初めに、西南部のヴロツワフ付近で行われた考古発掘は、50万年以前からポーランドで古人類が存在したことを更に証明した。一世紀末、スラブ人はヨーロッパの大半を占領した。スラブ民族は2本に分れ、現在のポーランドは西スラブ人の領地に属する。5～7世紀に渡って、このスラブ人は各地で部族連盟を作り、今日の「ポーランド」その中のポラニエ族（平原の民の意）に由来している。

9世紀の中葉、部族連盟の下で、国家の原形がポーランドで形成された。966年、歴史で記録されたピアスト一族の四代目王公のミェシュコ1世が、これら国家の原形をもとに、正式にポーランド国家を創出し、首都はグニェズノだった。国土の西部と南部はキリスト教の国家と境を接し、その他のヨーロッパ国家に受け入れてもらうため、ミェシュコ1世はキリスト教の洗礼を受け、それでポーランドはキリスト教の世界に入ってきた。992年に、ミェシュコ1世は病死し、その息子のボレスワフ1世が即位した。1000年に、神聖ローマ帝国のオットー3世はグニェズノで歓迎を受け、グニェズノはポーランド首都となった。ボレスワフ1世はオットー3世と友好関係を維持したため、その統治時は初期ポーランドの最盛期となり、ポーランドは次第に強大で統一した国になった。10世紀末、ポーランドは国土面積が25万平方キロメートルに達し、人口は約110万人だ。

1025年に、ボレスワフ1世が病死後、継任者間の権力争いと隣国の侵略があいまって、ポーランドは次第に弱まった。1037年に、ポーランドの政権が消え、国家はいくつか独立した地域に分裂された。1138年に、ボレスワフ3世が死んだ後、彼は国を分けて息子達に封じたが、間もなくして、兄弟達と彼らの継承者は指導権の争いなどで反目した。しかし、最も重要なのはボレスワフ3世の息子のボレスワフ4世によってクラクフ地区で創立された公国だ。国の政治センターも、以前のヴィエルコポルスカ地区から、東南部のマウォポルスキエ地区まで移行された。13世紀の間、ポーランド国内に渡る権力の争いは途切れなく続き、王位は頻繁に更迭し、国家がばらばらになった。それがゆえに、外敵の侵入が誘発された：東南部ではモンゴル人に三回も侵入された；北で、ポーランドと境を接するプロイセンの異教徒部落はポーランドの使節団を排斥し、マゾヴィア地区を脅した。1226年、プロイセン人の進撃を防衛するため、ポーランド公族はしかたなく十字軍の騎士団をポーランドに招致したが、その後十字軍の騎士団の絶え間ない不法占拠を導いた。

13世紀末14世紀初め、亡命したヴワディスワフ1世は再度ポーランドを統一した。1320年、ヴワディスワフ1世はクラクフで戴冠され、統一王国の君主になった。同時に、十字軍騎士団の勢力は北で絶えず拡大された。ヴワディスワフが死んだ後、継任者のカジミェシュ3世大王はポーランドの領土を引き続き拡大し、経済発展を促進し、それにポーランドの通貨制度を統一し、ポーランド最古の大学であるクラクフ大学を設立した。

カジミェシュ大王は1370年に病死し、即位する息子がいないため、ピアスト朝は断絶した。法国アンジュー王朝との合意によって、ハンガリーのルイ皇帝がポーランドの王位を受け継ぐことになった。1384年、ルイ皇帝が死んだ後、彼の娘のヤドヴィーガが即位した。彼女とリトアニアの大公ヴワディスワフ・ヤギェウォと結婚し、同君連合によってヤギェウォ王朝を創始した。それ以後200年（1389～1572年）に渡り、統治を続いた。



17世紀に、イタリア画家が描いたワルシャワ城

1410年、グロンヴァルトの戦いでポーランド・リトアニア連合軍がチュートン騎士団を打ち負かした。その後、1454～1466年の「13年戦争」で、ヤギェウォ4世は徹底的にチュートン騎士団に勝利し、150年余り占領された東ポメラニア地域を取り戻した。ヤギェウォ王朝最後の二つの国王であるジグムンド1世とジグムンド2世は、その任期内で引き続きバルト海のコントロール権を目指した第1回北方戦争の勝利を奪い、ポーランドの領土面積を絶えず拡大させた；大公国で文化と政治の繁栄を再現させた；トルコと平和条約を締結し、1569年にルブリンでポーランド・リトアニア連合王国、即ち、「ポーランド貴族の共和国」を創立し、国土面積はおよそ55万平方キロメートルだ。ポーランドはバルト海から黒海まで伸びる広い大国となり、16世紀はポーランドの発展史上における黄金時代になった。

ジグムンド2世オーガストが没した後、継承者がなく、ヤギェウォ王朝の統治は1572年に断絶した。ポーランドの「貴族議会」(Sejm)は選挙王制の段階をむかえ、王位の継承者は貴族の

自由選挙によって決められるようになった。しかし、貴族間の権力争い及び国王の権利を弱める主張で、彼らはむしろ自分たちの条件を受け入れやすい外国人を国王にするほうが好まれる。その結果、紛争が生じられ、国力もますます衰えてきた。即座してもポーランドの強大到努めるのではない人が圧倒的に多い、なぜかという、彼ら自身がポーランド人ではないため、彼らの後代に王位を受け継ぐことは期待してなかったからだ(1573～1795年の間、選挙された11人の国王の中で7位が外国人だった)。その間、1596年に、スウェーデンヴァーサ家のジグムント3世が首都をクラクフからワルシャワへと移転した。

17世紀は、ポーランドにとって繁栄から衰弱まで転換する時期だ。スウェーデンとの長期な紛争、及び突発した疫病のために、ポーランド

では「大洪水」と呼ばれる外国軍隊による侵入が起こった。1655～1660年までの間、スウェーデンとの第二回北方戦争で、ポーランドは国土が深刻に破壊され、人口が大幅に減少した。1620～1699年の間トルコと戦い、ソビエスキの統帥のもとでホチン戦役(1673年)とウィーン戦役(1683年)で光り輝く勝利を得たにもかかわらず、ポーランドの国力は深刻に損耗された。1700～1721年の間、ロシアとスウェーデンはポーランドで21年間も続いて第三回北方戦争を行った結果、スウェーデンはヨーロッパ列強の名簿から退出したが、ロシアはヨーロッパ強国になり、ポーランドはロシアの随従国に成り果てた。

内紛が相次ぎ、戦禍に見舞われたため、ポーランドは経済が困窮し、国力が著しく衰退され



ポーランド末代の国王であるスタニスワフ・アウグスト



バルト海の海浜



シフィノウィシチェ島 (ŚWINOUJŚCIE) の標識塔

風車の形をした標識塔は19世紀に建てられた防波堤の上に建築される。ここはポーランド西北端とドイツが相連なる半島であり（ポーランドからフェリーが必要）、ハンブルク、デンマーク、スウェーデンを結ぶ主な港だ。ここには、ポーランド最高の標識塔（68メートル）があり、島の西端は優良な砂浜に恵まれ、有名な国際海水浴場と有名な景勝地だ。





カミエニ・ポモルスキー (KAMIEŃ POMORSKI)

海浜から10キロメートル離れたカミエニ湖の畔にあり、古い港都市と有名なリゾート地だ。ここはかつて重要な貿易センターで、14世紀にハンザ同盟に加盟した。12世紀末期、ポンメルンのコイン発行製造工場はここに設置された。イラストにあるのは15世紀から16世紀末期にかけて建てられたゴシック様式の市庁舎だ。



カミエニ・ポモルスキーは一貫して中世紀の配置が保留され、ロマネスク・ゴシック様式の大聖堂内部には12世紀の洗礼盆、17世紀に加工された鉄製屏風及びバロック様式のパイプオルガンなどが保留される。夏にはここでオルガンコンサートが開催される。